

# 地方中規模博物館 自然史コレクションの 現状・活用と課題

～アンケート結果・博物館標本から分かったこと～

加藤ゆき恵  
釧路市立博物館



# 発表の流れ

- 北海道内の博物館の状況
  - 北海道内の博物館関係者へのアンケート結果
- 釧路市西部地域における街の発展と植生変化  
～収蔵標本から分かること～
  - 博物館収蔵標本と100年の街のあゆみの比較
- 地方中規模館

## 釧路市立博物館の植物収蔵庫の状況と課題

- 歴史のある「中規模館」としてかかえる課題





# 北海道内の博物館の状況

北海道内の博物館関係者へのアンケート結果

# 北海道内の博物館施設

- 道内には公立・私立の多数の博物館施設がある
- 北海道博物館協会に加盟している博物館は98
  - 美術館・科学館・動物園・水族館を除く
  - 2024年6月現在
- 北海道内の市町村数 179
  - 平成の大合併前は212
  - 合併後の統廃合、自治体内に複数館がある場合も





# 北海道内の博物館施設

- 道内には公立・私立の多数の博物館施設がある
- 北海道博物館協会に加盟している博物館は98
  - 美術館・科学館・動物園・水族館を除く
  - 2024年6月現在
- 北海道内の市町村数 179
  - 平成の大合併前は212
  - 合併後の統廃合、自治体内に複数館がある場合も

釧路市も「釧路市」「阿寒町」「音別町」が合併、  
阿寒・音別にそれぞれ展示室がある  
(管轄は博物館ではない)

釧路市立博物館



# 北海道内の博物館施設

道博協  
加盟博物館  
98館中

- 大規模館（学芸員30名前後） 2館
  - 国立アイヌ民族博物館、北海道博物館（道立）
- 中規模館（学芸員5名以上） 9館
  - 小樽、帯広、苫小牧、釧路、函館、旭川、美幌、北見、北海道開拓の村
- 小規模館（学芸員0～3名） その他

- \* 加盟関数・学芸員数は2022年10月現在
- \* 「学芸職員」「研究職員」等を含む
- \* 大学博物館を除く



# 北海道内の博物館施設

道博協  
加盟博物館  
98館中

- 大規模館（学芸員30名前後） 2館
  - 国立アイヌ民族博物館、北海道博物館（道立）
- 中規模館（学芸員5名以上） 9館
  - 小樽、帯広、苫小牧、釧路、函館、旭川、美幌、北見、北海道開拓の村

- 小規模館（学芸員0～3名） その他

90%近くが学芸員0～3名



# 北海道内の博物館施設

道博協  
加盟博物館  
98館中

- 大規模館（学芸員30名前後） 2館
  - 国立アイヌ民族博物館、北海道博物館（道立）

- 中規模館 **釧路市立博物館 学芸員8名**
  - 小樽、帯広、苫小牧、釧路、函館、旭川、美幌、北見、北海道開拓の村

- 小規模館（学芸員0～3名） その他



釧路市立博物館

# 北海道内の学芸員へのアンケート

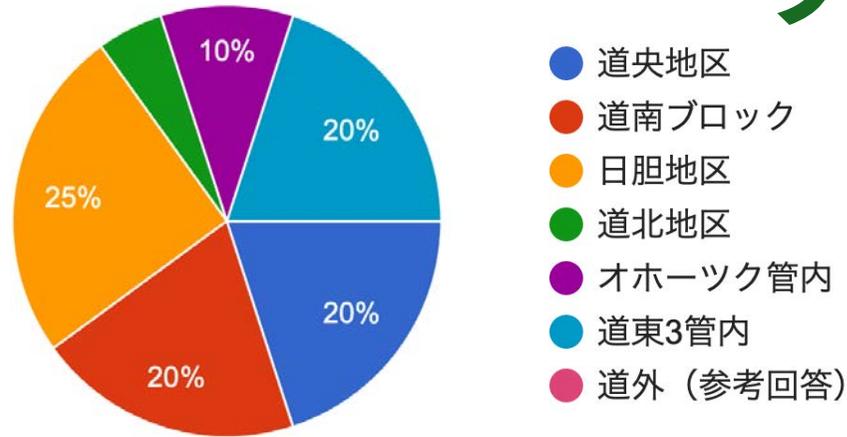
- 期間：2025年1月16日～1月31日
- 対象：北海道博物館協会学芸職員部会員
  - 博物館職員、OB、大学教員、学生などが個人加盟
  - 自然史・人文・美術等のさまざまな学芸員がいる
- 自然史標本管理の経験や問題の解決法について
- 標本情報のデジタル化について
- 自然史資料データベース・アーカイブの公開について
- その他（その他自由記述）

20名から回答

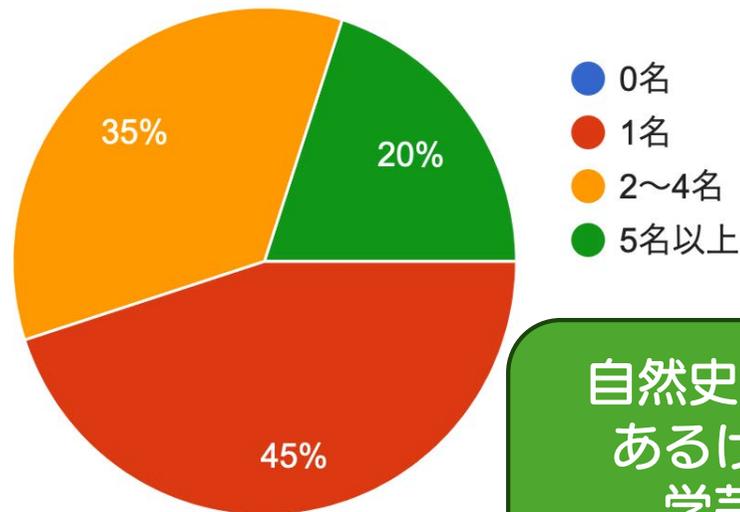


# アンケート結果

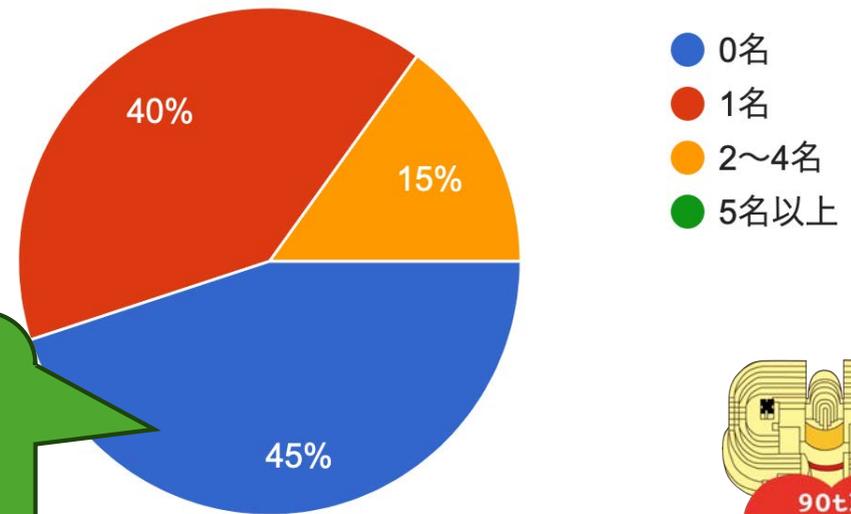
## • 地域



## • 学芸員数 (勤務形態問わず)



## • 自然史分野学芸員数 (勤務形態問わず)

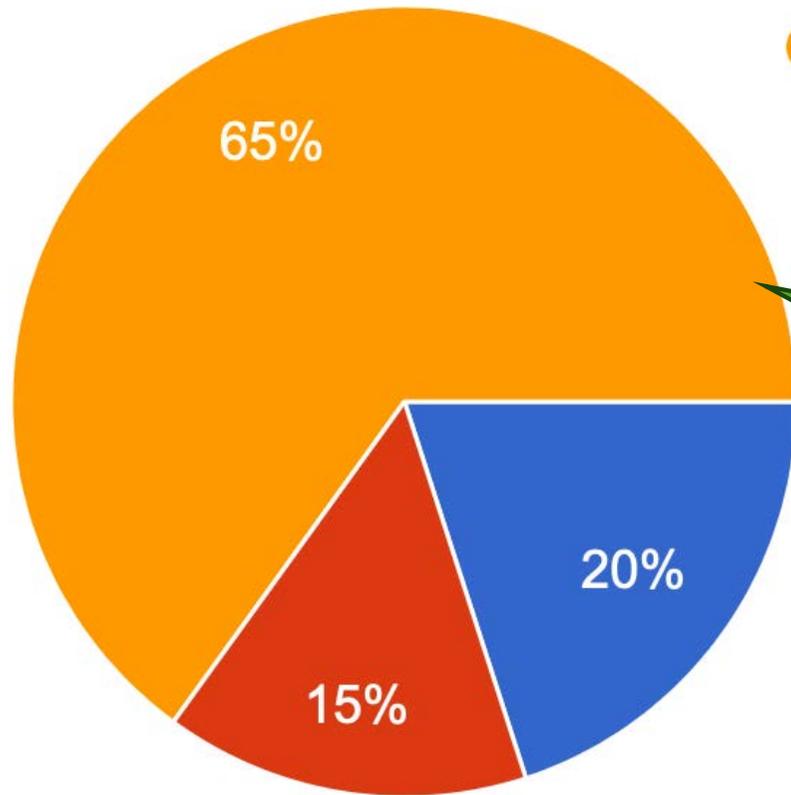


自然史標本があるけれど学芸員ゼロの館も！



• 博物館勤務前に自然史標本を扱う機会があったか？  
(実習等の数日間の体験を除く)

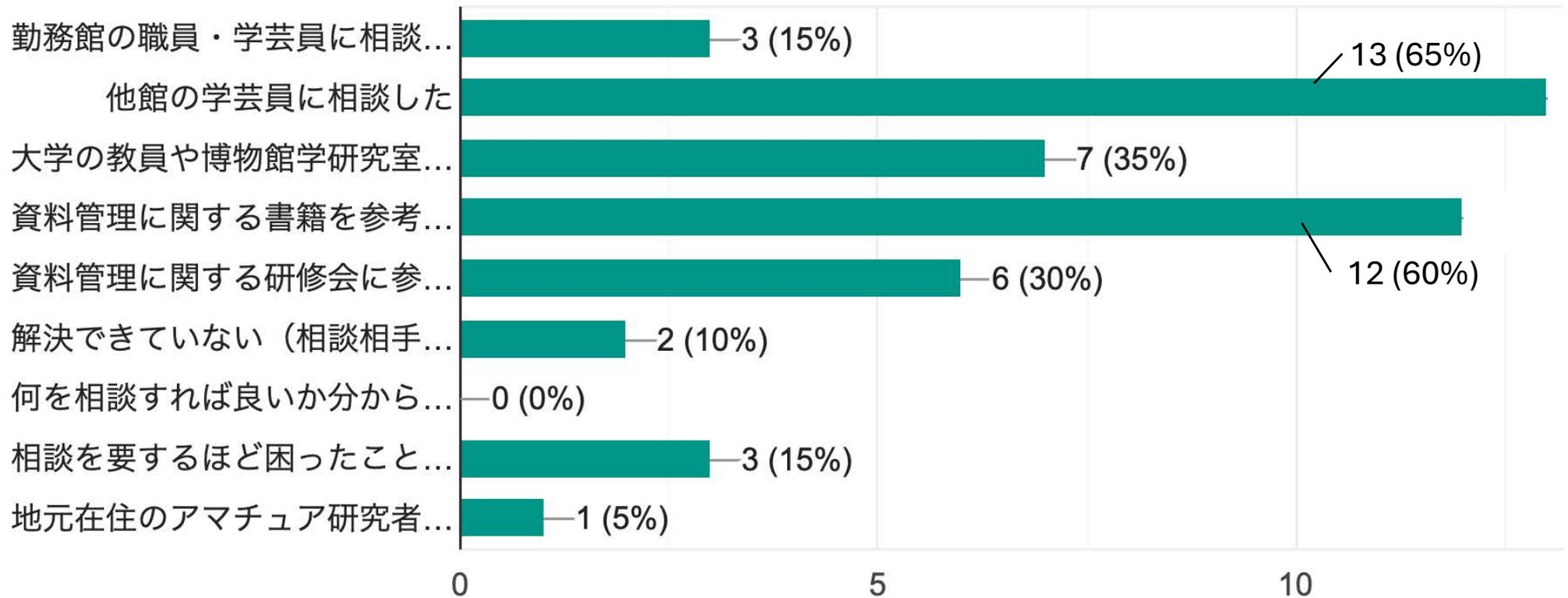
- あった (専門性を持って管理した経験)
- あった (標本整理ボランティアくらいの経験)
- なかった (勤務後にはじめて扱った)



勤務後にはじめて  
扱う場合が大半



# ・自然史標本の管理で困ったことがあったとき、 どのように解決したか（複数回答）

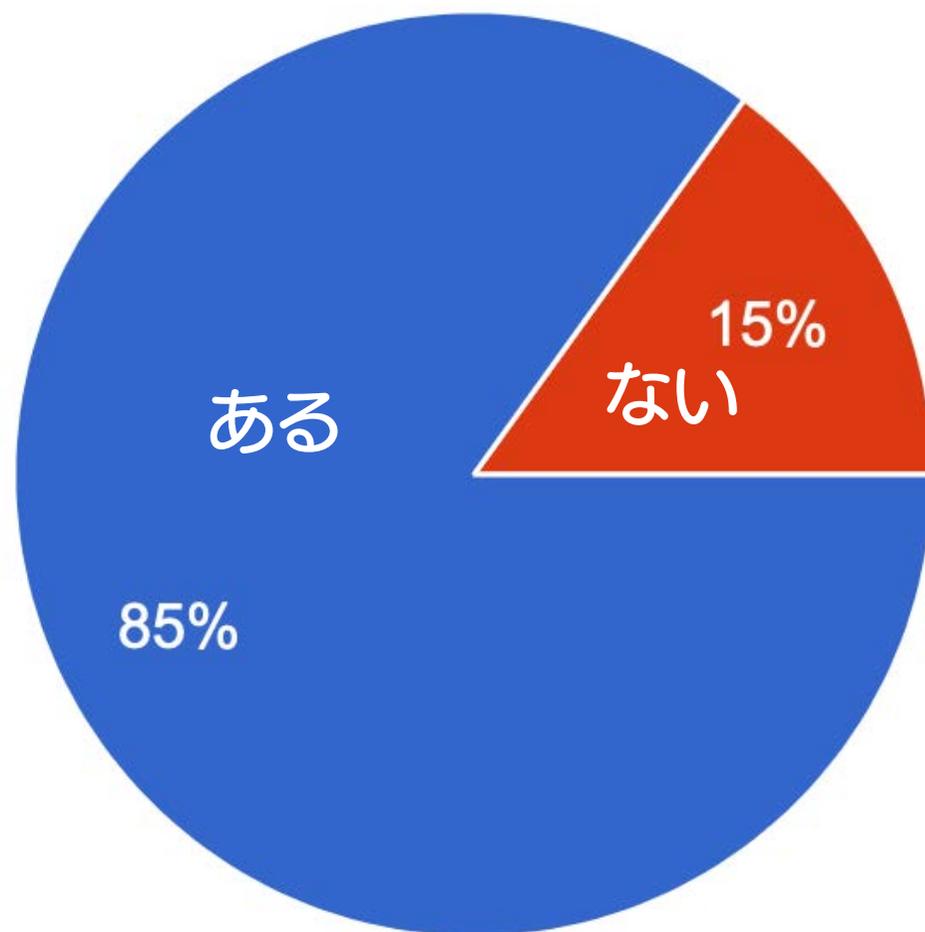


小規模館が多いため、  
「他館の学芸員」「大学」  
「書籍」「研修会」が多い

博物館ネットワークが  
重要！！



- 博物館資料（人文資料を含む）についての研修会等に参加したことはあるか  
〈道博協、サイエンスミュージアムネット、文化庁など〉



## ・役に立ったこと、独自の工夫など

- S-Netのような全国的の学芸員が参加する研修会は、勉強の場としてとても助かります。また近隣の、同じ分野の博物館学芸員とのつながりがあることで、気軽に質問などができ助かっています。
- 予算がないときの環境維持のための基本的なほこり、カビ対策は「家事対策の掃除道具」が役にたった。(特にハンディモップなど。個人的に購入していた)
- 総合的な資料リストがなかったため、過去の資料台帳からのExcel入力をひたすら行い、情報と資料の統合作業をした。



## ・役に立ったこと、独自の工夫など

- 資料台帳にNotionを活用しています。データをいくらでも拡張できること、無料で利用できること、共有可能なことなどは大きなメリットだと感じています。AIを利用した資料検索も可能なため（有料）、正規表現にとらわれない自由な入力ができる点も魅力です。
- できるだけ様々な分類群の資料を用いた展示や普及活動を計画的に実施することで、資料が動態している状況を作り出し、収蔵庫の資料の全貌の把握とそれを元にした収集、整理計画の立案に役立てている。
- 将来的に資料整理を担う人材の育成のために、市民ボランティアの研修を3年ほど前から開始した。



## ・困っていること、課題など

棚は足りないのですが、新規の購入は難しいので、安価に収納できる方法があるといいなと思っています。他に、これまで使用していた消耗品が廃版になったりすると困ります。

剥製資料の防除、修復、収蔵スペースの確保

すぐに取り出すことが出来ない。

収蔵スペースが不足。写真撮影など雑務への時間がたりない。

収蔵スペースが足りない。保管場所が勤務地と離れており防犯上、資料劣化予防上問題がある。

現在、歴史、埋蔵文化財系の資料のスペースの10分の一も与えられておらず、収蔵スペースが足りない。

収蔵スペース不足で、事務室など至るところに資料がある（学芸員は、どこに何があるかは把握しており、すぐに資料を取り出せる）。資料整理の時間はほとんど皆無である。

収蔵スペース不足

## ・困っていること、課題など

収蔵スペースが足りないし、空調等保存に適した設備がない。自然史標本等専門に扱える職員がいない分野が多い。

収蔵環境環境が劣悪で、対応に苦慮している。新たな収蔵庫建設の予算もつかない。。。当然収蔵スペースが足りないので、DIYで館内にスペースをつくっている。

収蔵スペースがなく、資料はどんどん増えていく。業務の優先順位は、展示と教育普及・来館者対応のため、資料整理の時間が無かった。

(回答している自分自身、現在は館所属の人間ではなく、異動後に所蔵資料整理のボランティアとして出入りをさせてもらう約束だった。しかし異動から2年後に館長が変わり、関係者以外の人間は出入り禁止にされた。最近、後任の学芸員が『資料保存ボランティア』を立ち上げたため、一任することにした)

資料調査に割く時間が限られてくること

資料の清拭やサビ落としなどのメンテナンスの時間がとれません。

収蔵スペースの不足。収蔵環境の悪化（特に夏季の湿度）。防虫剤（ナフタレン）の使用規制に対する対応

## ・困っていること、課題など

資料整理のための時間がとれない

資料整理の時間、人員が不足している

- ・自然史専門が1名であり、かつ管理職のような立場になってきているため、自然史の事業に多くの時間を割けなくなっている
- ・近年の猛暑で夏場の収蔵庫の温湿度が上昇しており、今後の管理に不安がある。
- ・膨大な資料の大半の所在や状態を把握できていない状況であり、先述したように状況の改善に向けて少しずつ整理を進めているが、終わりが見えない。

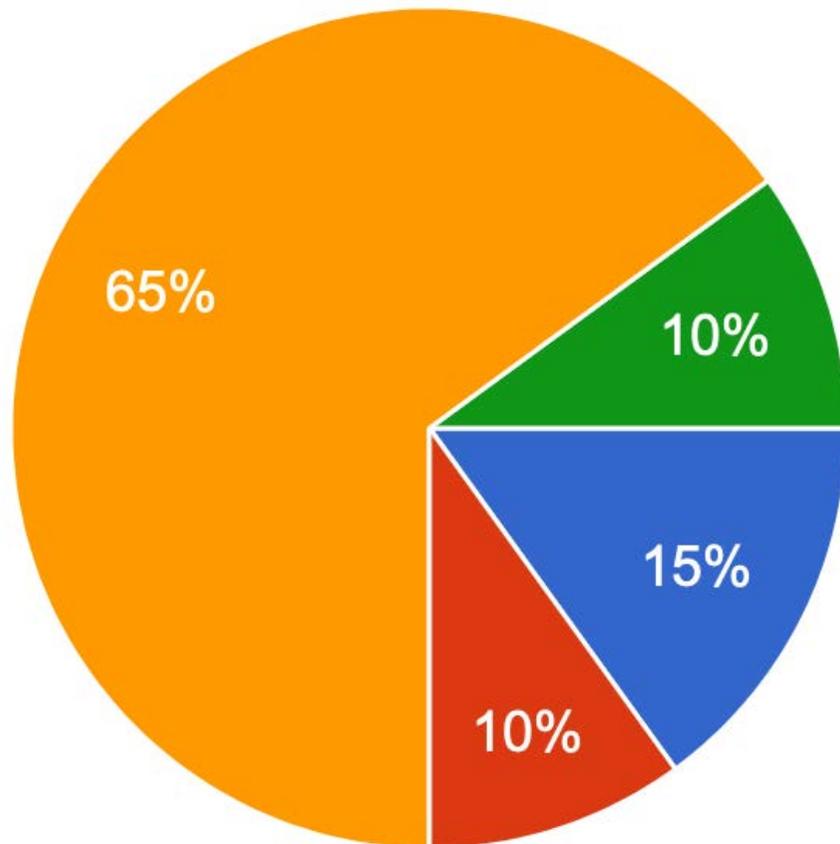
博物館業務だけでなく、事務、埋蔵文化財保護業務もすべて一人で行うため、人手と時間が足りない。

- ・スペース不足
  - ・出し入れ困難、外部収蔵庫
- ・時間不足、人員不足
- ・修復やメンテナンスができない



# デジタル化・データベースについて

- 自然史標本情報はデジタル化して管理しているか
  - 分野によって状況が異なる場合は、デジタル化が一番進んでいる部分について回答

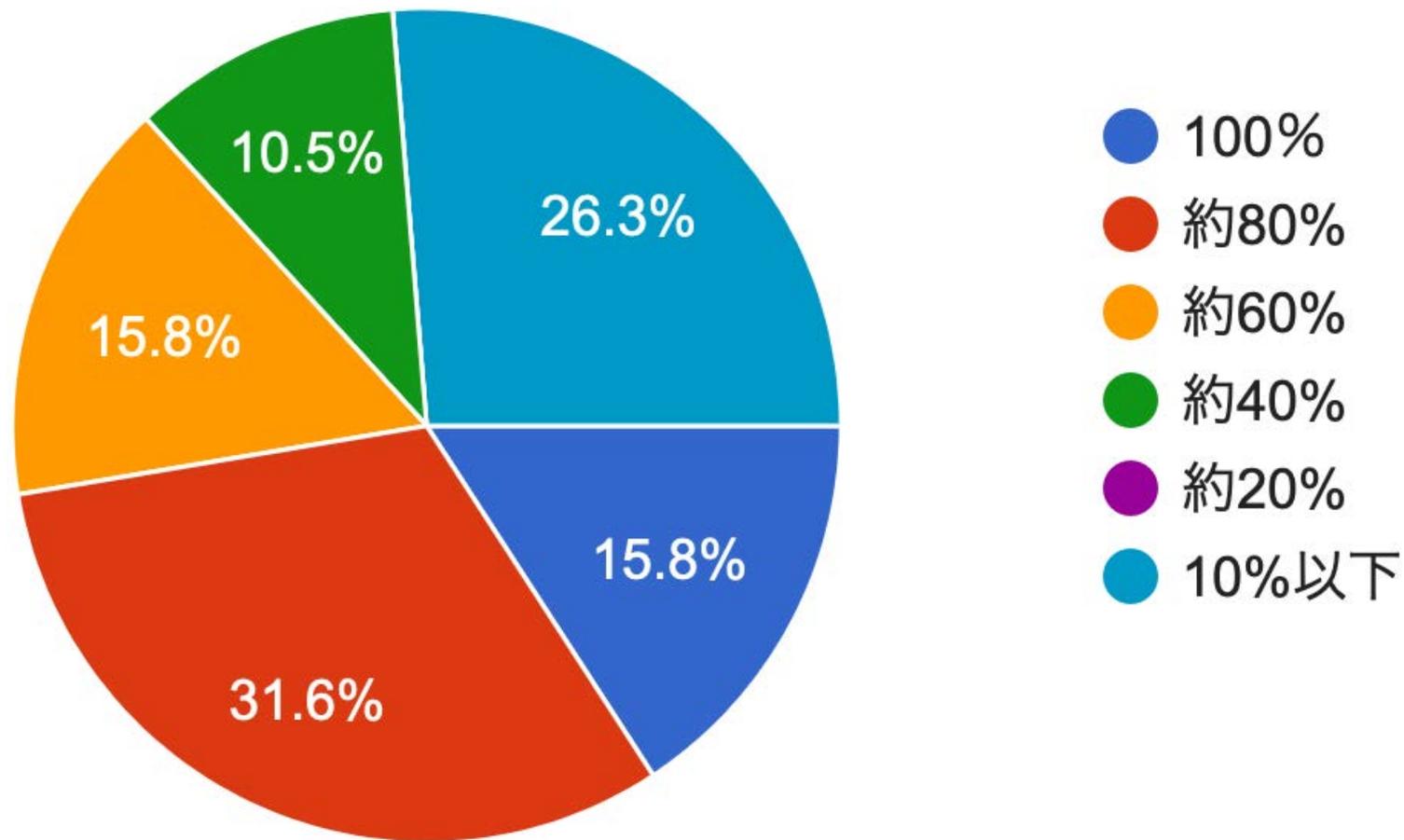


- 自館独自のデータベース形式で管理 (...)
- 外部クラウドで管理 (早稲田システム開発等)
- Excel等で管理
- デジタル化できていない (紙の台帳のみ)

# • 自然史資料を全部管理（把握）している場合

自然史資料全体の何割くらいデジタル化されているか？（Excel等の生データを含む）

- 「だいたいこれくらい」という概ねの感覚の数



## 役に立ったこと、独自の工夫

- S-Netを利用し始めてから、必要な入力項目がわかりました。
- ラベル作成と並行して資料登録や整理を実施しています。
- 検索、資料の状況把握など管理が格段に楽になった。
- エクセルシートの活用
- 所蔵資料の把握が容易になるため、展示シナリオを構成する時に幅ができたこと
- 将来的にサイエンスミュージアムネットに掲載することを目的に、入力項目などを参考にしている。

S-Netが参考・目標になっている

# 困っていること、課題等

標本写真をどのように撮影するのがベストなのか、わからないので困っています。

動植物、岩石鉱物の種類がわからないため、多数の資料が名称不明のままになっている。

今までのデータベースには画像データが付記されておらず、画像データを付記するかどうか、付記するならどのような方法をとるのかなど、今後の課題は多いと思う。

自然史資料を専門に扱う職員がいないので、分類等が正しいのか検証が難しい。

導入時に業者と綿密にやり取りをし、移行データの確認やフォーマットの整備をしないと、後々データの抜け飛び、フォーマットがこちらの意図したものと違ったり苦労をし、チェックも大変だったので導入時にどれだけきちんとやり取りできるかが肝かと思います。



# 困っていること、課題等

画像、資料とエクセルの情報の突き合わせができない

データベースソフトの更新

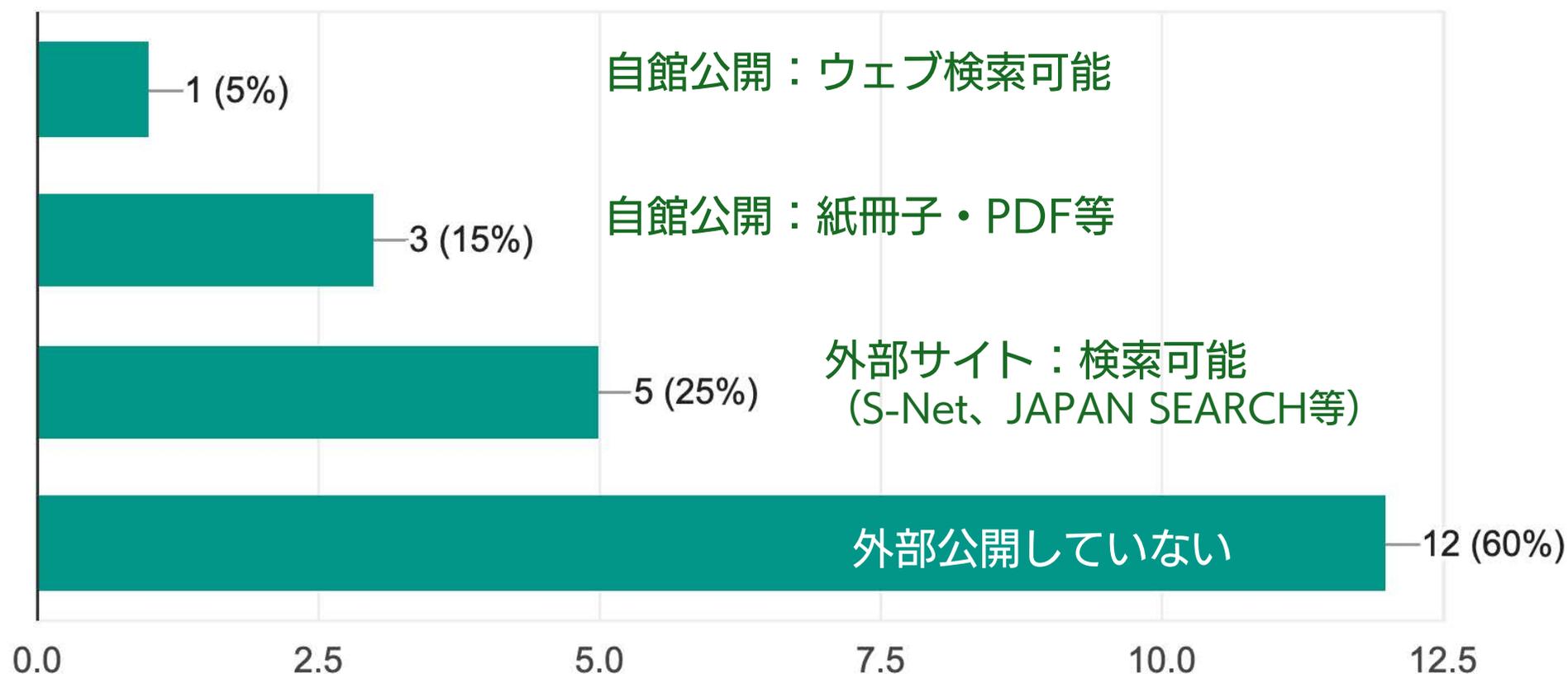
写真撮影等の時間、人員不足

- ・ 自然史標本をハンドリングできる人材が自分しかいないため、ラベルの入力が進まない。また、入力する時間もとれない
- ・ 専門書やホームページなどを参考しているが、入力項目や運営方法に不安がある。
- ・ データベースを行政の自然保護等にどのように活用してもらえれば良いか手探り状態

- ・ 時間不足、人員不足
- ・ 画像（撮影・データ管理）をどうするか
- ・ 専門外分野の資料管理



## ・ 自然史資料データベース、アーカイブの公開方法



## 役に立ったこと

- ・ S-Netによって自館のシステムを作る必要がなく、助かりました。

## 困っていること、課題等

- 歴史資料、芸術資料は全く公開されていないことが課題です。またデジタル化は、担当学芸員のやる気次第などところがあります。
- 今後館のHPを作成して公開を考えている。
- データベースを作り公開するための人員、技術、予算がとれていない
- 自館のウェブサイトを持っていないので、多くの資料を公開する場所がない。
- 検索機能付きのページも作成したいが、予算などの確保が問題だと思っている。
- 職場内のコンセンサスが得られません。情報公開には慎重な傾向にあります。
- 国外からの問い合わせへの対応



# 「北海道の中小規模博物館の自然史コレクションの現状と課題」として伝えたいこと、知って欲しいこと

その分野の担当がいなくなった場合の、引継ぎが不安です。

前任や自身の専門分野については資料が集まっているが、どうしても分野外の資料収集は後回しになってしまうため、標本の作成や勉強会などがオンライン、対面であれば是非参加したい。

歴史、民俗資料の割合が高く、職員も人文系であり自然史系資料を展示したり、自然史系の調査をしたりする知識技術が不足する。

いつも思うが、「自然史」という言葉の範囲が広すぎる。いくつもの分野を含んでおり、それぞれの専門分野によっては、標本の管理方法や作成方法も異なると思うので、もう少し用語を考えることはできないだろうか。

はく製等の寄贈の話があっても、地元で捕獲されたものではなかったり、床の間に飾るために購入したもの（由来が不明なもの）の場合、取り扱いに困ることがあるので、他館はどうしているのか、情報が知りたい。また、上記のような資料を引き取っていただける施設があれば紹介してほしい。

# 「北海道の中小規模博物館の自然史コレクションの現状と課題」として伝えたいこと、知って欲しいこと

前述もしたが、館業務の優先順位としてコレクション管理の位置付けは低い。トップダウンで具体的かつ義務的・経年的な業務として取り組まなければ手をつけられない。

また、上層部や館長の意向で外部とのつながりが簡単に左右されるため、現場にいる人間は本当につらいと思う。

既存のコレクションの管理だけでなく、それらとの比較として、現在を記録するため、採集・標本化そして保管も重要と考えている。

既に状態の悪い標本が多数を占めており、既存の標本をそのままにしておくことは厳しい

他館のノウハウや資料リストを気軽に共有できる場がもっとあると良いと思います。

- 学芸員の努力や研修・勉強会参加では補えない課題がたくさんある





# 釧路市西部地域における 街の発展と植生変化 ～収蔵標本から分かること～

博物館収蔵標本と100年の街のあゆみの比較

# 釧路市立博物館の沿革

- 1936年（昭和11年） **来年で創立90年！**  
釧路市立郷土博物館として創立

戦時中の資料疎開、戦後はデパートで展示

- 1951年（昭和26年）  
鶴ヶ岱公園に新館開館

- 1983年（昭和58年）  
春採公園に移転開館  
「釧路市立博物館」に改称

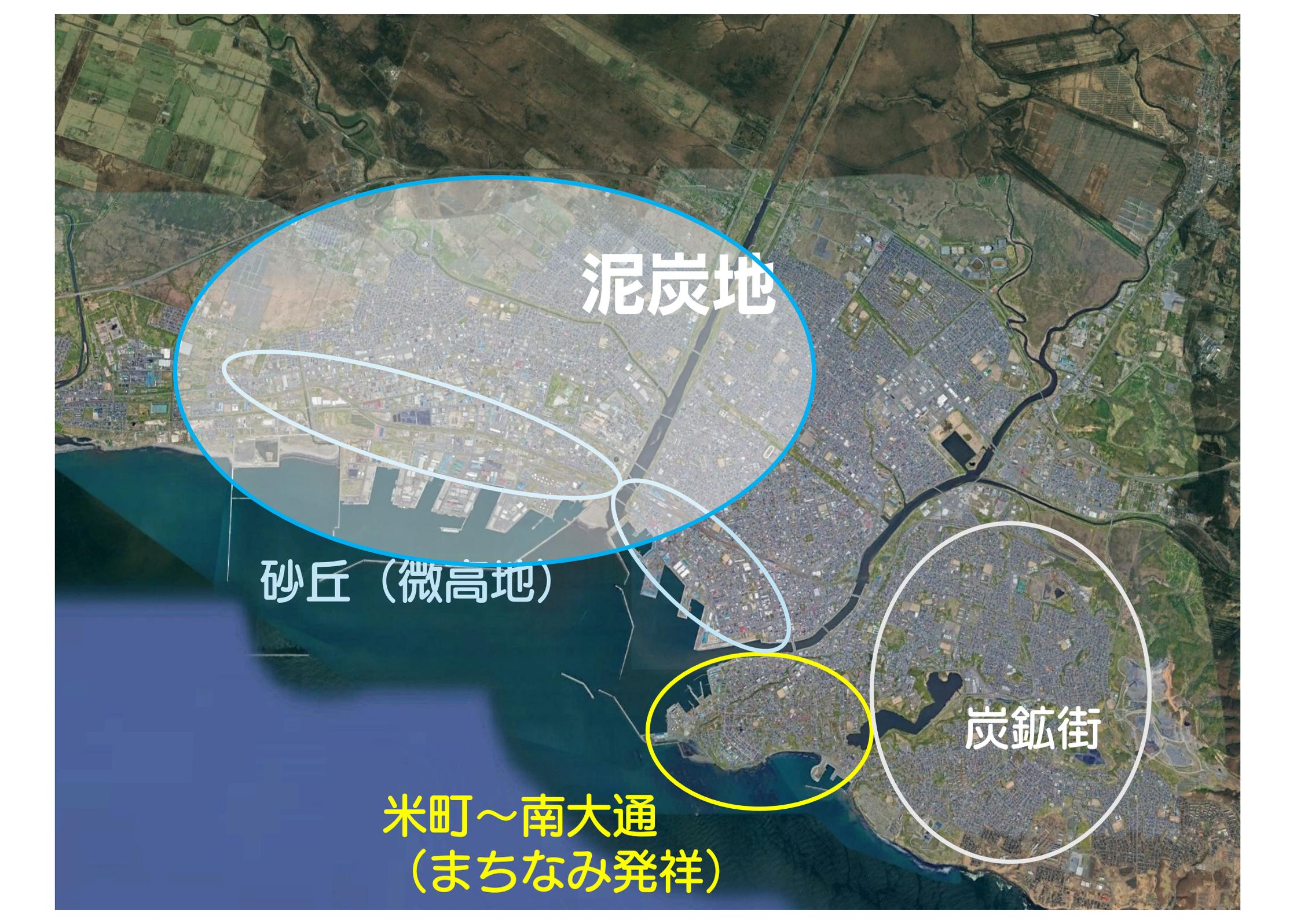
**新築移転後40年以上**



# 背景 〈釧路のまちの歴史〉

- 江戸時代から、東部の高台から釧路川河口周辺にかけて市街地が形成されていった。





泥炭地

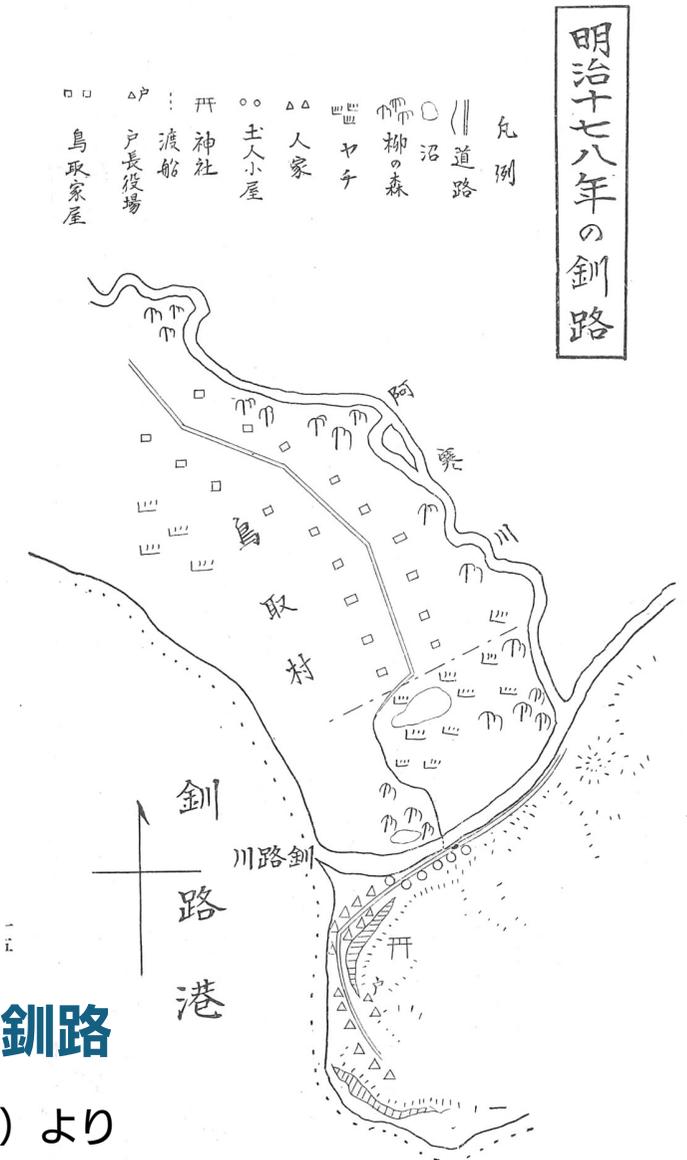
砂丘（微高地）

炭鉱街

米町～南大通  
（まちなみ発祥）

# 背景 〈釧路のマチの歴史〉

- 西部地域は明治期以降に鳥取県旧士族が移住し、鳥取村として街が形成されはじめた。
- 製紙工場の操業、鉄道の敷設、河川の氾濫と改修、海岸部の埋め立て、市街地の拡大など、この100年で環境が劇的に変化した。



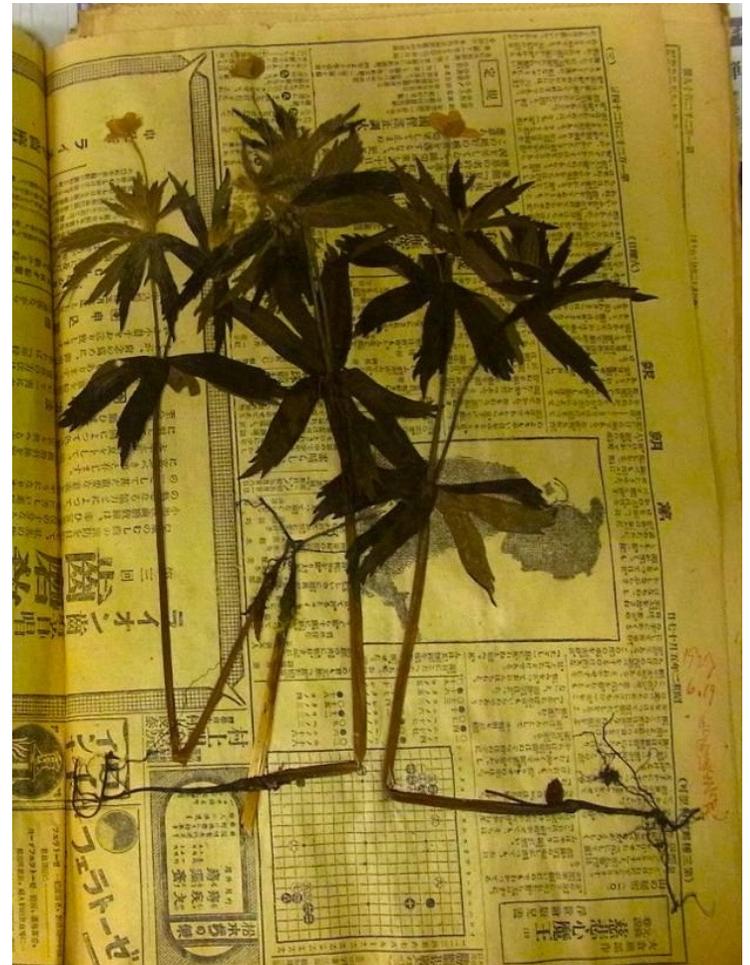
1885年頃の釧路

『鳥取村五十年史』（1934）より

# 背景 〈古い植物標本〉

- 釧路市立博物館には1920年代から2000年代のものまで、釧路市西部地域で採集された植物標本が収蔵されている。
- 釧路市西部地域の街の発展と、植物標本の種構成の変化を比較・考察する。

フタマタイチゲ 1927年6月19日  
鳥取泥炭地



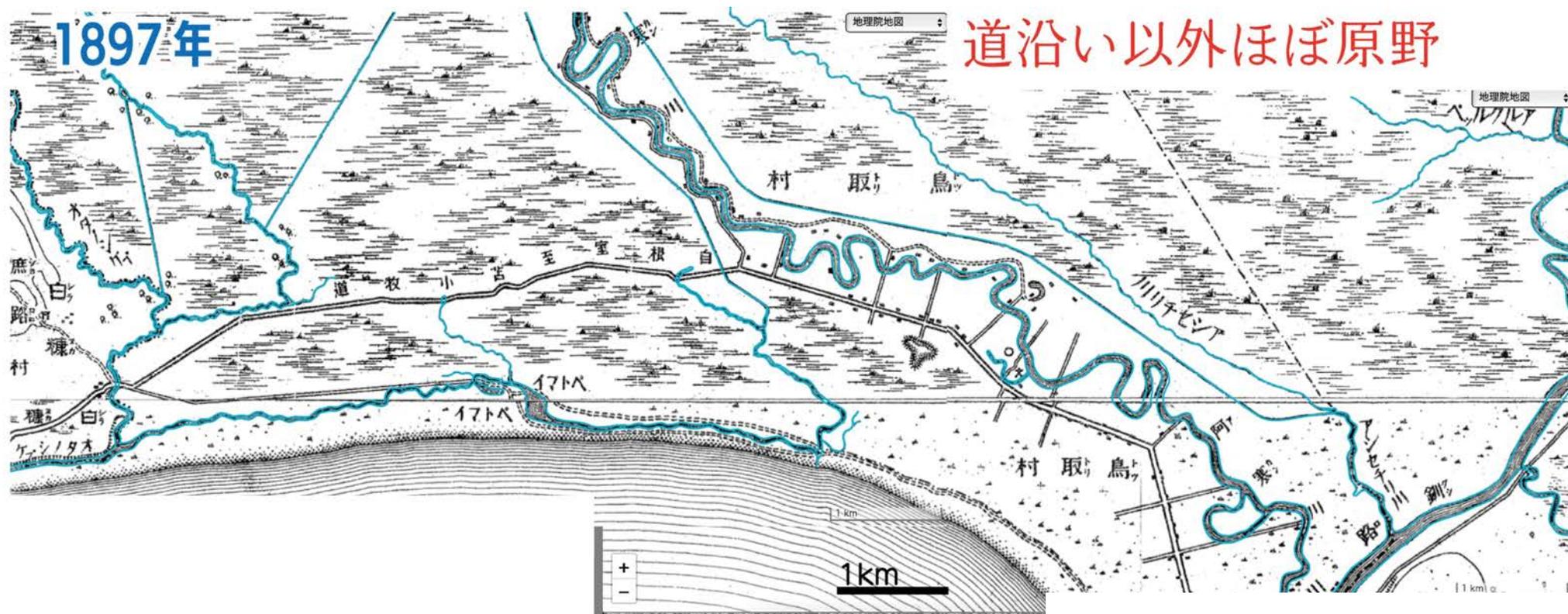
# 調査方法

- 釧路市西部地域の地名（鳥取、新富士、大楽毛、昭和）が書かれている植物標本を年代ごとにリスト化し、主な生育環境ごとに区分した。
- 河川改良や港湾建設の歴史を年表にまとめ、各年代の地形図・空中写真の変化と併せてまとめた。
- 年代ごとの標本リストと自然環境・市街地形成を照合し、傾向を分析した。



# 土地利用と植物標本の比較

- 1884年 鳥取士族移住開始
- 1890年 阿寒川流路の一部を大楽毛川へ切替



地図は時系列地形図閲覧サイト

「今昔マップon the web」((C)谷 謙二) より作成 (比較のための全ての地図)

- 1918年 製紙工場建設開始
- 1920年 富士製紙釧路工場操業開始、周辺市街地化  
洪水で阿寒川の流路が切り替わる



## 1920年代標本

- |    |  |
|----|--|
| 水生 | タヌキモ、ヒルムシロ属数種、ネムロコウホネ?、アマモ属、チシマミズハコベ                                     |
| 湿生 | ワタスゲ、ヒメワタスゲ、イトナルコスゲ、シコタンキンポウゲ、フタマタイチゲ、ツボスミレ、オオバタネツケバナ、ツマトリソウ、ヤチヤナギ、ミツガシワ |
| 海岸 | スミレ (スミレorシロスミレ)   |
| 外来 | ヒメスイバ  |

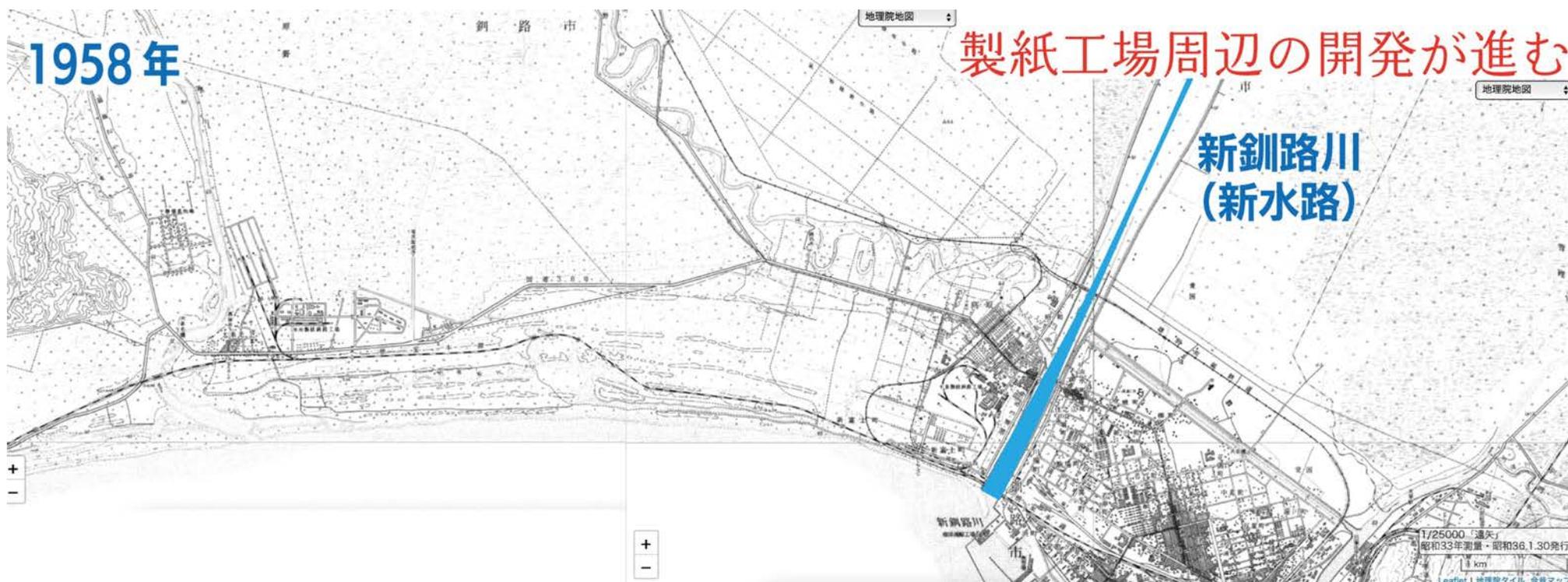
- 1918年 製紙工場建設開始
- 1920年 富士製紙釧路工場操業開始、周辺市街地化  
洪水で阿寒川の流路が切り替わる



## 1920年代標本

- |    |  |
|----|--|
| 水生 | タヌキモ、ヒルムシロ属数種、ネムロコウホネ?、アマモ属、チシマミズハコベ                                     |
| 湿生 | ワタスゲ、ヒメワタスゲ、イトナルコスゲ、シコタンキンポウゲ、フタマタイチゲ、ツボスミレ、オオバタネツケバナ、ツマトリソウ、ヤチヤナギ、ミツガシワ |
| 海岸 | スミレ (スミレorシロスミレ)   |
| 外来 | ヒメスイバ  |

# • 1930年 新釧路川（新水路）完成



## 1950年代標本

### 水生

オオタヌキモ、ヒメタヌキモ?、ミクリ、ヌマハリイ

### 湿生

オオカサスゲ、ムジナスゲ、ハリガネスゲ類、アブラガヤ、クサイ、マコモ、  
Calamagrostis、Juncus、シコタンキンポウゲ、ヤナギトラノオ、ツボスミレ、  
ツルネコノメソウ など

### 海岸

クロカワズスゲ、コウボウ、ウシノケグサ類、ハマナス、チシマセンブリ、  
ウラジロヨモギ、エゾノシシウド、オオカサモチ、ハマボウフウ)

### 外来

ヘラバヒメジョオン

# ・1930年 新釧路川（新水路）完成



## 1950年代標本

- 水生** オオタヌキモ、ヒメタヌキモ?、ミクリ、ヌマハリイ
- 湿生** オオカサスゲ、ムジナスゲ、ハリガネスゲ類、アブラガヤ、クサイ、マコモ、  
Calamagrostis、Juncus、シコタンキンポウゲ、ヤナギトラノオ、ツボスミレ、  
ツルネコノメソウ など
- 海岸** クロカワズスゲ、コウボウ、ウシノケグサ類、ハマナス、チシマセンブリ、  
ウラジロヨモギ、エゾノシシウド、オオカサモチ、ハマボウフウ)
- 外来** ヘラバヒメジョオン

- 1969年 釧路西港着工
- 1975年 第1埠頭完成
- 1981年 第2埠頭完成



## 1980年代標本（海岸の植物調査）

**野山** セイタカスズムシソウ、クモキリソウ、エゾヌカボ、イチゲフウロ、オオダイコンソウ、ヤナギラン、カラフトアカバナ、オオヨモギ、ヤブジラミ など

**海岸** エゾキスゲ、エゾノコウボウムギ、コウボウシバ、チャシバスゲ、ヤマアワ、オカヒジキ、エゾカワラマツバ、ハマニガナ、シコタンタンポポ、ハマボウフウ など

**外来** コヌカグサ、ドクムギ、ホソノゲムギ、オハツキガラシ、クジラグサ、グンバイナズナ、セイヨウアブラナ、ソバカズラ、ハイミチヤナギ、マツヨイセンノウ、シナガワハギ、コメツブウマゴヤシ、ビロードモウズイカ、ブタクサ、ヤネタビラコ など

- 1969年 釧路西港着工
- 1975年 第1埠頭完成
- 1981年 第2埠頭完成



## 1980年代標本（海岸の植物調査）

**野山** セイタカスズムシソウ、クモキリソウ、エゾヌカボ、イチゲフウロ、オオダイコンソウ、ヤナギラン、カラフトアカバナ、オオヨモギ、ヤブジラミ など

**海岸** エゾキスゲ、エゾノコウボウムギ、コウボウシバ、チャシバスゲ、ヤマアワ、オカヒジキ、エゾカワラマツバ、ハマニガナ、シコタンタンポポ、ハマボウフウ など  
コヌカグサ、ドクムギ、ホソノゲムギ、オハツキガラシ、クジラグサ、グンバイナ

**外来** ズナ、セイヨウアブラナ、ソバカズラ、ハイミチヤナギ、マツヨイセンノウ、シナガワハギ、コメツブウマゴヤシ、ビロードモウズイカ、ブタクサ、ヤネタビラコ など

## 1990年頃の標本

新釧路川河川敷・湿原域・海岸・住宅地を含む広範囲の調査

湿生

アゼスゲ、オオカサスゲ、エゾアブラガヤ、エンコウソウ、ナガバツメクサ、クロバナロウゲ、ホロムイリンドウ、ミツガシワ、エゾシロネ、サワギキョウ、トウヌマゼリ など

野山

キバナノアマナ、イトアオスゲ、カラフトブシ、キツネノボタン、エゾオオヤマハコベ、カラフトダイコンソウ、ミツモトソウ、クサフジ、ヤナギタンポポ など

海岸

チャシバスゲ、ウシノケグサ、コウボウ、センダイハギ、ハマエンドウ、ヒロハノカワラサイコ、エゾツルキンバイ、ハマナス

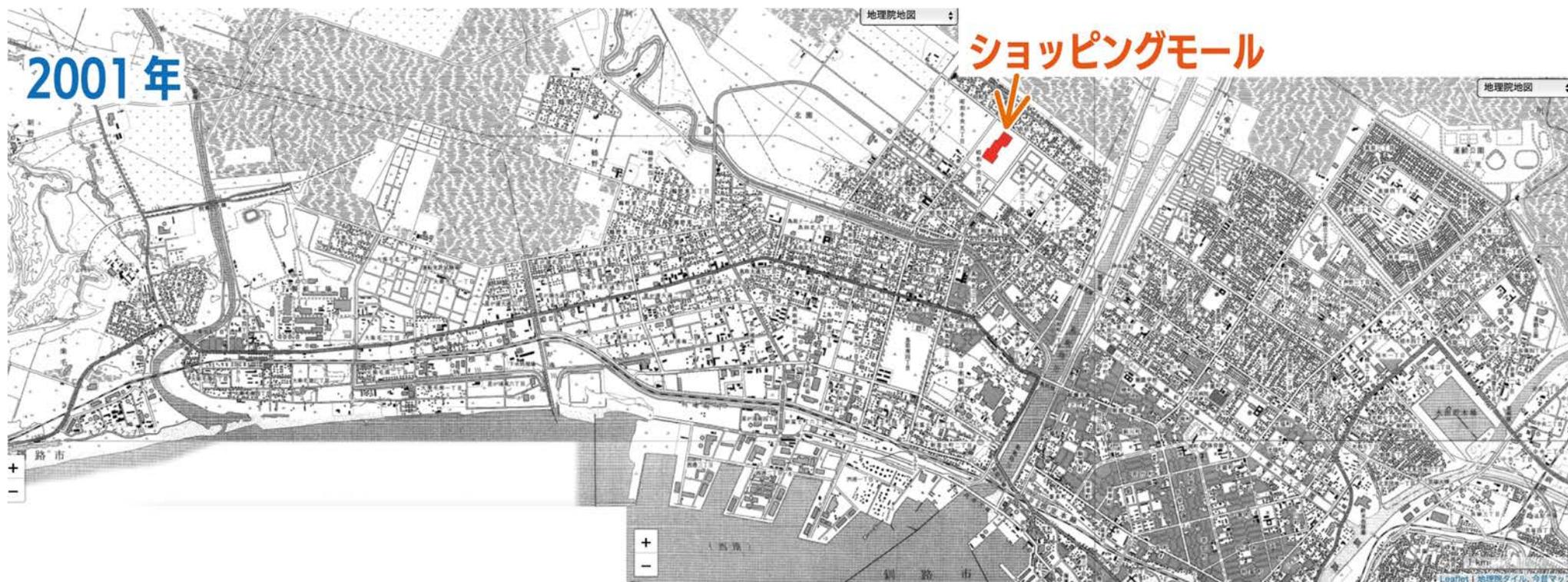
外来

クシロヤガミスゲ、オオスズメノカタビラ、カラフトホソバハコベ、ヒメスイバ、セイヨウキンポウゲ、タチオランダゲンゲ、ムシトリナデシコ、ハルザキヤマガラシ、オオアワダチソウ、カミツレモドキ、ユウゼンギク など

新釧路川河川敷、残存湿地に湿生植物あり。  
住宅街（製紙工場社宅）を中心に外来植物多い。



- 1995年 第3埠頭完成
- 2000年 北部地域に大型ショッピングモール開店、  
周辺が急激に宅地化される。



## 2010年代の標本 釧路西港の調査

- 水生** ウキクサ、フトイ、イヌイトモ、ホザキノフサモ、サジオモダカ  
**湿生** ヤラメスゲ、フトイ、クサヨシガマ、バッコヤナギ、ウナギツカミ、ナガボノ  
 ワレモコウ、サワギキョウ など  
**野山** ヤマブキショウマ、エゾタチカタバミ、イチゲフウロ、ウツボグサ など  
**海岸** オカヒジキ、エゾノコウボウムギ、コウボウシバ、テンキグサ、センダイハギ、  
 ハマナス、ハマハコベ、ヒロハノカワラサイコ、ハマニガナ、ハマボウフウ  
 など  
**外来** ホソノゲムギ、ヒメスイバ、カラフトホソバハコベ、ホコガタアカザ、オニハ  
 マダイコン、クジラクサ、マツバトウダイ、クスダマツメクサ、メマツヨイ  
 グサ、コシカギク、ノラニンジンなど

海岸湿地に水生植物・湿生植物あり。  
工業港エリアに多様な外来植物。



- 2020年代 高速道路延伸  
市街地周辺に太陽光発電所激増中



これらの地図は時系列地形図閲覧サイト  
「今昔マップ on the web」 ((C)谷 謙二) より作成した

# 「街の発展と標本」まとめ

- 土地利用の変化
  - 内陸：湿地（原野） → 市街地
  - 海岸：自然海岸 → 埋立・工業港
- 標本構成種の変化
  - 内陸：湿生・水生種 → 普通種・外来種
  - 海岸：海岸植物 → 外来種 増
- 採集者の興味関心の対象も変化している  
(埋立地は外来種の最前線！)





# 地方中規模館 釧路市立博物館の 植物収蔵庫の状況と課題

歴史のある「中規模館」としてかかえる課題

# 釧路市立博物館の状況

- 個性的な建築家による設計（釧路出身毛綱毅曠氏）

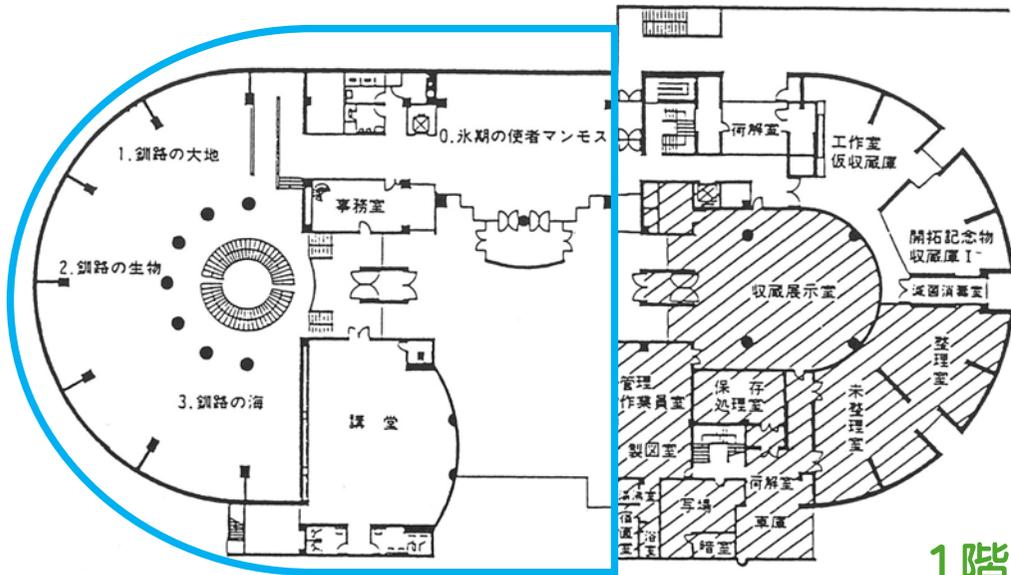
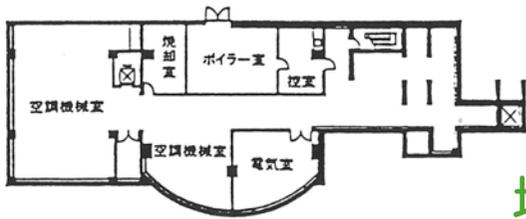


建物が直方体じゃない！！

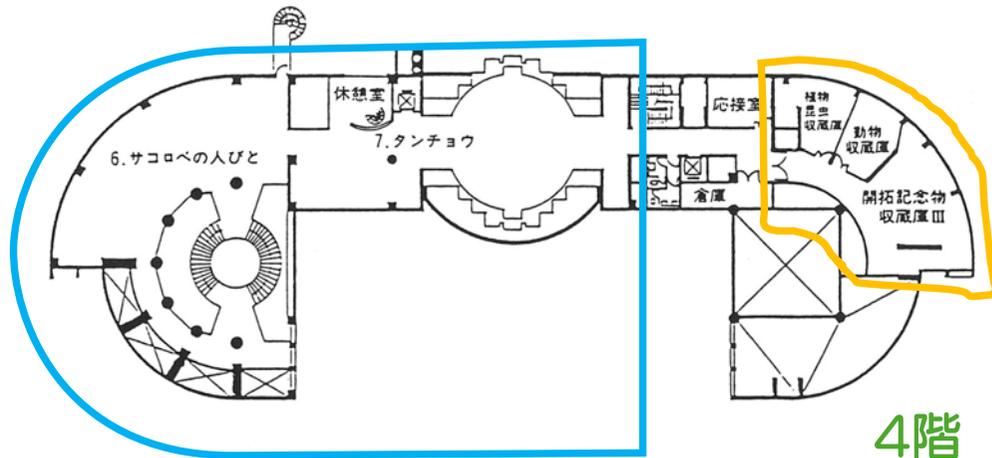
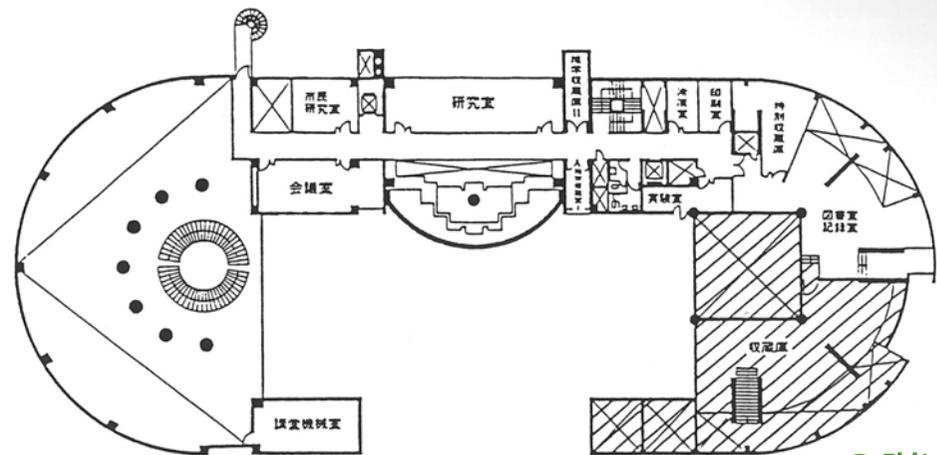
釧路市立博物館



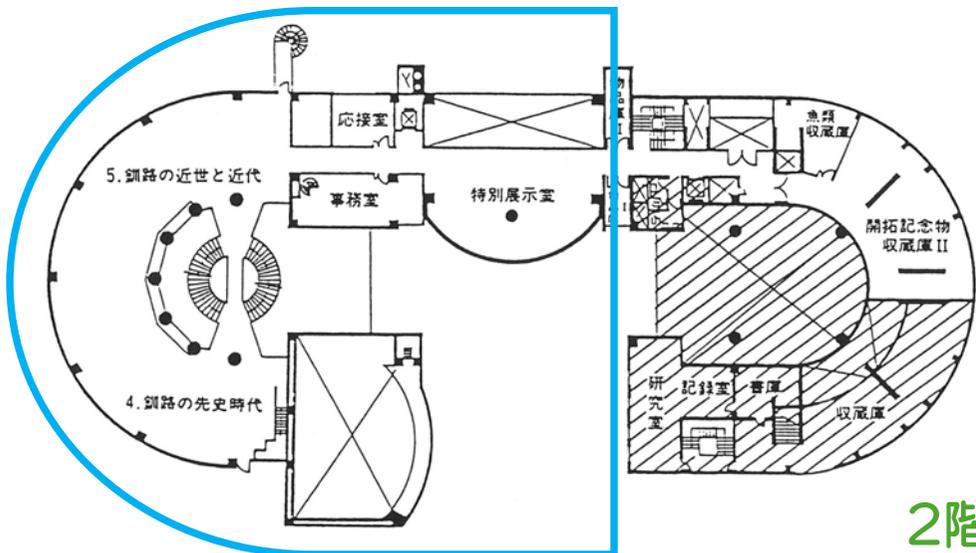
# 展示エリア



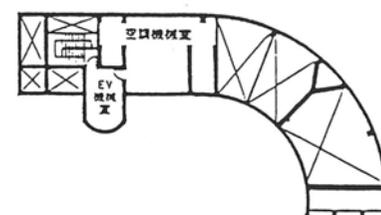
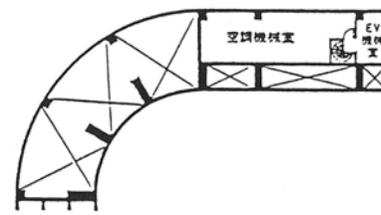
1階

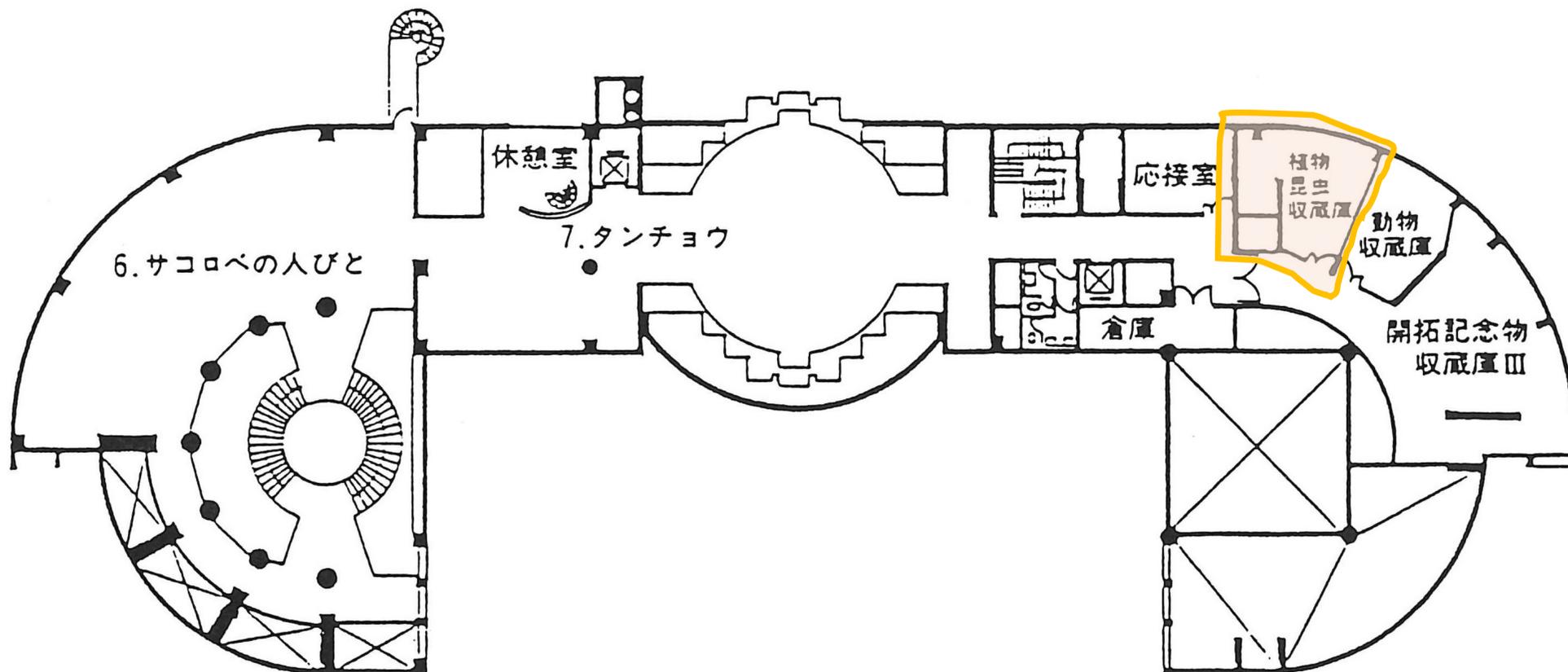


4階



2階





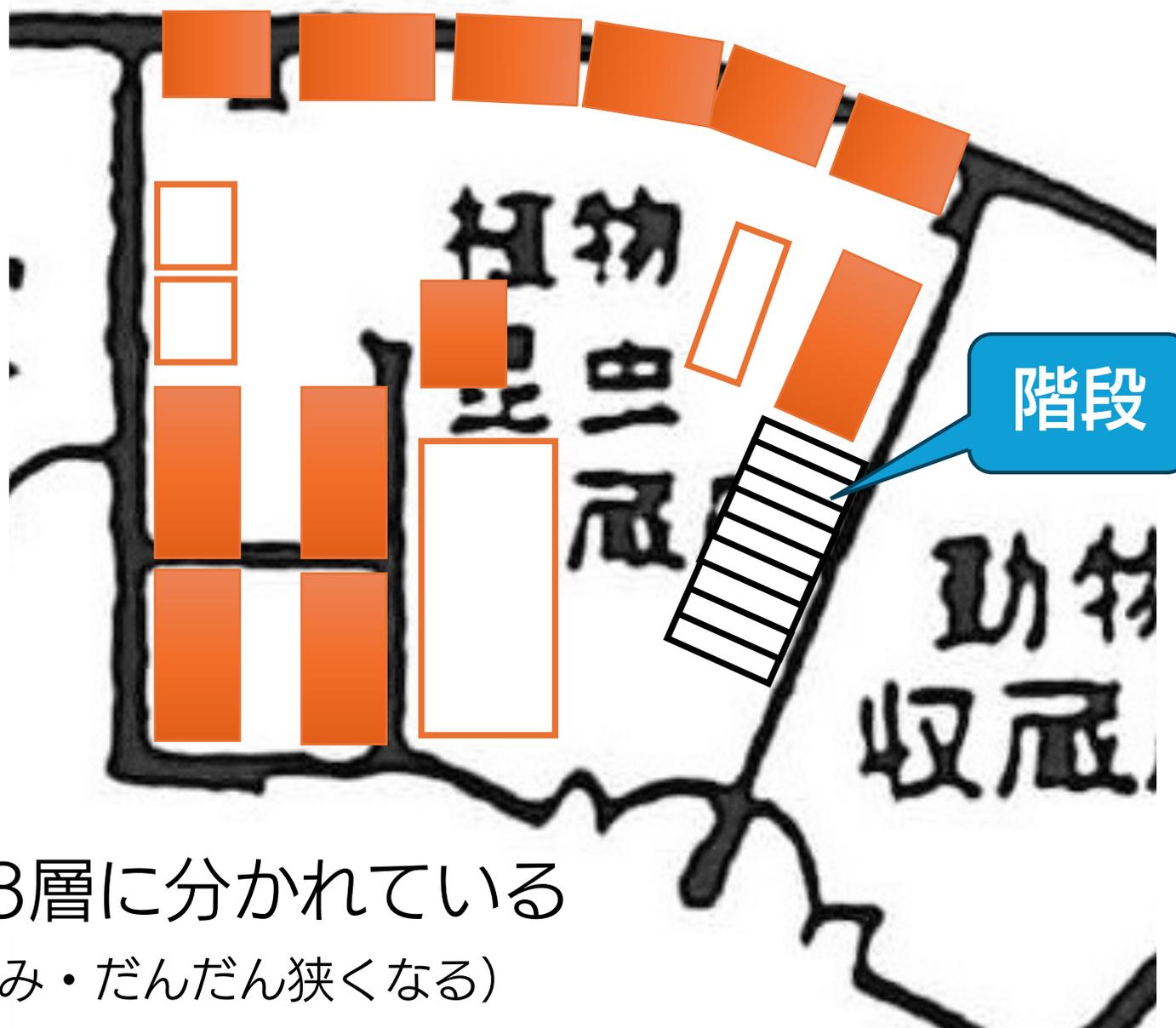
4階

収蔵庫が扇形！！



釧路市立博物館

# 植物収蔵庫（棚配置の概念図）



- 中は3層に分かれている  
(階段のみ・だんだん狭くなる)



# 植物収蔵庫



棚は四角なので、デッドスペースが発生  
扉を全開にできない

釧路市立博物館

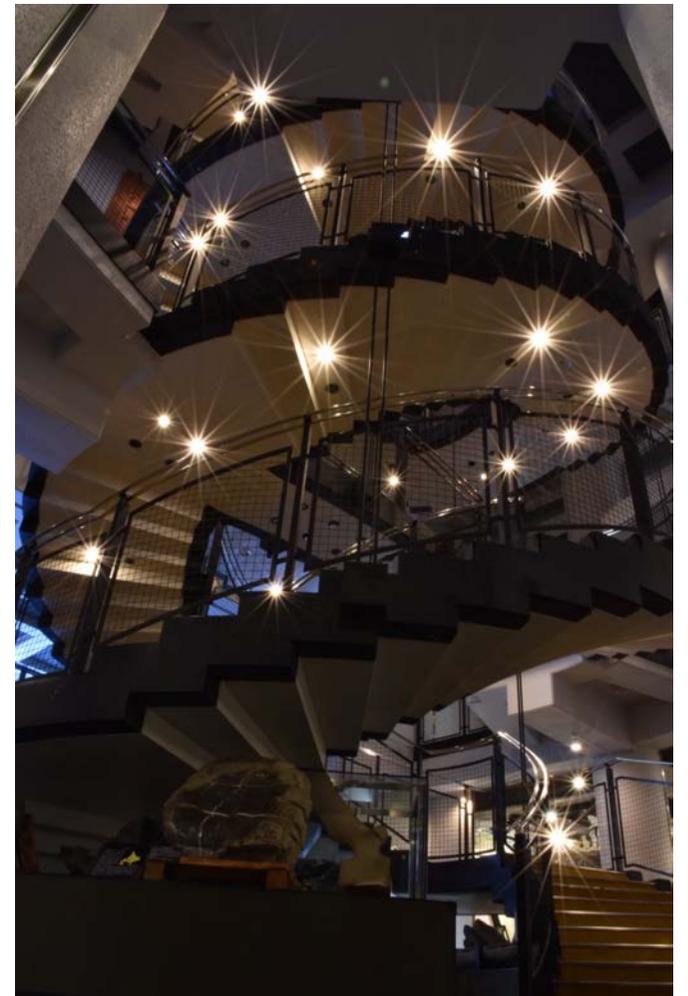


# 釧路市立博物館の状況

- 個性的な建築家による設計

→ 建物が直方体じゃない！！

- 展示室はいいけれど、収蔵庫は四角がいい……



# 中規模館ならではの？の課題

- 収蔵資料がそこそこ多い。道東圏から資料が集まってくる
  - 担当分野は限られるが、扱う点数は多い
    - 地域の標本は地元の博物館に残しておきたい
- 自分の管理外の標本資料の情報が分からない
  - 自然史分野はS-Netである程度情報を統一できるが、博物館共通のデータベースを作るのが困難
  - 分野ごとにデジタル化の程度がバラバラ、学芸員のIT対応力もバラバラ
- 合併した阿寒町、音別町の資料は……？



# その植物標本は利用可能か？

- 2つの個人コレクション（滝田謙譲コレクションと松本秋義コレクション）
- 4か所のフロラ標本（春採湖・海岸・湿原・阿寒湖畔）

分けて収蔵・保管されていた。

- 労力とスペースから、個人コレクションはそのまま、それ以外は1つにまとめてAPG体系で再配架

旧エングラータ体系

## 植物の分類体系

エングラータ体系（形態分類）



APG体系（系統分類）

大幅に変わった！

見たい標本に  
たどり着くために  
クセのある  
検索が必要



釧路市立博物館

# その植物標本は利用可能か？

- 1983年に現在の場所に移転
  - 旧館から運んだままと思われる木箱に入った標本が、2012年時点で多数あった→現在順番に整理中
  - 古い標本に関する問い合わせがあったが、恐らくその中にあり、対応できなかった
- 1920年代標本も、内容は把握できているが、配架には至っていない



# 植物収蔵庫は常に整理途上

- 収蔵庫の未整理箱（前述の木箱を含む）をとりあえずざっと確認、中身を大まかに把握
- 比較的容易に配架まで持って行ける標本から、データ入力→収蔵庫番号付与（順次S-Net登録）→配架を進めている
  - 自分が採った標本も順次登録・配架
  - 重複は北海道大学総合博物館に移管予定

手間のかかる標本が残される

標本整理ボランティアを養成したいが、地域的问题もある  
（人口減少・都会と地方のライフスタイルの違い  
ボランティアは高齢者中心）



# 全体のまとめ

## • 北海道内の博物館の状況

- 道内博物館の約90%が学芸員0~3名。自然史資料があっても人文系学芸員しかいない館もある。
- 問題解決は近隣館、研修などネットワークが重要
- 収蔵庫スペース不足、あらゆる面で時間・人員不足が課題
- データベース化にはS-Netが参考・良い目標になる

## • 地方中規模館釧路市立博物館の植物収蔵庫の状況と課題

- 収蔵資料がそこそこ多く、広域から集まって来る
- 細分化できる分、全体を把握できない
- 歴史が長い分、未整理も増大している
- 人口減少地域でボランティアを養成できるか？



# 謝辞

- 北海道博物館協会 学芸職員部会の皆様
- 本研究の一部は、令和3～7年度 文部科学省 科学研究費助成事業 学術変革領域研究（A） 「ゆらぎの場としての水循環システムの動態的 解明による水共生学の創生」（JP21H05177：領 域代表 荒谷邦雄〈九州大学 比較社会文化研究院 主 幹教授〉）を利用して行った



釧路市立博物館

